くにまもり　力たくわえ強くなり　世の波風を治むる国へ

令和元年。靖國神社のみたままつりに、揮毫（きごう）ぼんぼりを奉納しました。ぼんぼりに揮毫した和歌が、今回のコラムのタイトルです。今年は戦後80年の節目です。この80年を振り返りながら、戦後生まれの私たちが今後の日本をいかに守っていくか、21世紀の国防とは何かを考えてみようと思います。

国際法を無視した民間人への空爆や、原爆投下までおこなって戦争に勝利したアメリカは、二度と日本が歯向かってこないように、様々な方法で国を変えようとしました。当時の政治家たちは、後の日本人が立ち上がることを信じて、歯を食いしばってアメリカに従ったのだと思います。昭和天皇も、日本人の気概を信じて敗戦を受け入れたはずです。しかし「現行憲法の自主的改正」を党是として１９５５年に結党した自民党は、未だ憲法の誤植一文字すら修正できていません。軍隊は持てず、自衛隊として再出発したものの、世界標準から見ればまだまだ不十分です。

それでも日本は、先人たちの努力で焼け野原から立ち上がり、１９６４年にはアジア初のオリンピックを開催。ボロボロだった国がわずか19年で復興したことに世界は驚きました。そして１９６８年にＧＤＰ世界2位の経済大国となります。しかし、バブル崩壊と共に「失われた30年」が始まります。経済は伸び悩み、国防にも研究開発にもまともに資金が投下されませんでした。

だからこそ今、日本は「力をたくわえる」ときです。一丁目一番地は経済力です。経済が強くなれば、研究開発に投資ができます。人材育成にもお金が回り、ドローンなどの国防の装備も整えることができます。アメリカのＩＴ企業が強いのも、研究開発に使う投資額が桁違いだからです。日本もまともに成長していれば、今ごろＧＤＰは一千兆円を超えていたはずです。経済が強くなれば、優秀な人材を世界から呼び込むこともでき、サイバーセキュリティやマーケットの防衛にも力を入れられます。株式市場を見ても、いまはボタン一つで数千億円が海外に流れてしまう時代です。土地も技術も、日本の価値あるものがどんどん外国に買われています。これでは日本人が自国の豊かさを失っていくばかりです。経済力をつけ、人が育ち、食料やエネルギー自給率を上げ、国防にも資金を投下できれば、強い国になっていくと思います。

そして「世の波風を治むる国」とは、世界中で起きている戦争やその火種を日本が治めていくことです。そのために日本が果たすべきことは「ギブ＝与えること」です。経済的に余裕ができれば、困っている国々に、農業でも、エネルギーでも、医療でも、日本が持つ力を惜しまずに提供できます。そうして「日本があってよかった」と世界中から思ってもらえる国になる。これが21世紀の国防です。戦争はしかけない。でも、もし日本に手を出せば「ただでは済まない」と恐れられる。そんな備えも最低限必要です。日頃からギブし続け、様々な面で世界に貢献をすることで平和を勝ち得るのです。

そして、最も大切なのは「人」です。ささやかな個人の夢を持ち、それと同時に大きな志を持ち、傍（周り）を楽にする仕事観や実力を持つ人が育っていくこと。このような人が増えれば、家族も会社も地域も、国も強くなり、世界に良い影響を与えます。くにまもり　力たくわえ強くなり　世の波風を治むる国へ。この言葉の通り、私たちが日本を世界に必要とされる国へと育てていきましょう。

(株)キャリアコンサルティング 代表取締役社長
MURODATE Isao **室舘 勲**

2003年に株式会社キャリアコンサルティングを設立。全国で若者の育成に取り組む。ブータン王国王立マネジメント大学など講演実績多数。全国社内木鶏経営者会 副会長。ミス・ワールド・ジャパンの講師・審査員。著書に『夢を見て　夢を叶えて　夢になる』（致知出版社）、『まずは上司を勝たせなさい』（講談社）、『「応援される人」になりなさい』(ワック)がある。